

高校生の情報モラルに関する実態

～ アンケート調査結果から ～

亀山 弘^{*1}

昨年、長崎県で小学生殺人事件があった。インターネットのホームページ掲示板に悪口を書き込まれたことがトラブルの原因らしい。この事件をきっかけにして、全国で情報モラルの育成が問題になっている。実態を正確に把握するためにアンケート調査を実施することで、高校生の実態を再認識し、今後の生徒指導のあり方を考察することができた。

<キーワード> 情報モラル, 高校生, アンケート調査, 実態分析

1. はじめに

インターネットのブロードバンド化とともに、情報通信ネットワークの利用が急速に増加し、その利用が未成年者にも広まるなかで、未成年者が様々な事件に巻き込まれることが多くなってきた。特に最近では、長崎県での小学生殺人事件が衝撃的ニュースである。インターネット上にあるホームページの掲示板への書き込みがお互いのトラブルの原因だったらしい。この事件以来、学校での情報教育の必要性や情報モラルの育成が大きな問題となっている。

羽島高校では、教科情報の授業の中で情報モラルに関する指導はしているが、対象は2年生のみである。1, 3年生については、その指導が一切行われていないのが現状である。

そこで、この事件をきっかけにし、情報モラルに関する生徒の実態を把握するため、全校生徒対象のアンケート調査を夏休み前に実施した。そのデータ結果を分析することで生徒の実態を正確に理解するとともに、問題点を明確にし、今後の生

徒指導に生かしていきたいと考えている。そのアンケートの中から特徴的な項目についての結果とその分析をしてみた。なお、このデータの母集団は610人である。

2. 調査結果と分析

(1) 家庭でパソコンの個人的利用回数

0回	月に1回	週に1回	1日1回	1日10回未満	1日10回以上	未回答
205	136	123	66	34	21	25

表1 (数字は人数)

(2) インターネットの利用状況

家庭でインターネットを利用する時間

0時間	月に1時間	週に1時間	1日1時間	1日10時間未満	1日10時間以上	未回答
251	117	84	67	52	8	31

表2 (数字は人数)

^{*1} KAMEYAMA Hiroshi : 岐阜県立羽島高等学校 (〒501-6241 羽島市竹鼻町梅ヶ枝町 200-2)

上記表1と表2の結果から、各家庭にパソコンが普及し、高校生でもかなり自由に利用できる環境になってきていることがわかる。インターネットは家庭のTVと同じような身近な存在になっている気がする。

携帯電話の Web を利用する時間

0時間	月に 1時間	週に 1時間	1日 1時間	1日10 時間 未満	1日10 時間 以上	未 回答
118	161	145	87	32	24	43

表3（数字は人数）

携帯電話は、電話として利用するのではなく、インターネットなどの情報通信端末として多くの生徒が気軽に利用している。その利用は家庭だけではなく、学校で生活している時でも利用していることが上記表3からよくわかる。

(3) ネットショッピングやオークション

家庭のパソコンでネットショッピングやオークション参加回数

0回	月に 1回	週に 1回	1日 1回	1日 10回 未満	1日 10回 以上	未回答
484	71	8	1	1	3	42

表4（数字は人数）

電子商取引（EC）というのは、一般社会人や業者の行う売買ではなくなっている。普通の家庭や高校生まで利用されている様子が、表4からわかる。詐欺行為などの売買のトラブルに巻き込まれないように、各家庭で用心してほしい。

まさか保護者の知らないところで、高校生が個人的に利用していることはないだろうと思うが、本校生徒の利用状況を見ると不安を感じざるを得ない。

携帯電話の Web でネットショッピングやオークション参加回数

0回	月に 1回	週に 1回	1日 1回	1日 10回 未満	1日 10回 以上	未回答
533	27	6	4	1	1	38

表5（数字は人数）

パソコンと同じように、携帯電話でもネットショッピングやオークションに参加していることが、上記表5からわかる。保護者の理解や了解が得られているだろうか。

(4) 迷惑メールや不審メールへの返信

家庭のメールで迷惑メールや不審メールへ返信した回数

0回	月に 1回	週に 1回	1日 1回	1日 10回 未満	1日 10回 以上	未回答
545	8	3	2	7	4	41

表6（数字は人数）

携帯電話のメールで迷惑メールや不審メールへ返信した回数

0回	月に 1回	週に 1回	1日 1回	1日 10回 未満	1日 10回 以上	未回答
530	14	19	4	1	1	40

表7（数字は人数）

パソコンのメールより、携帯電話のメールでの返信が多い。メールアドレスなどの個人情報が流れる可能性があるため、スパムメールやチェーンメールなど巻き込まれないようにしてほしい。

(5) 掲示板の個人的な書き込み

家庭のパソコンで掲示板に個人的な書き込みをした回数

0回	月に 1回	週に 1回	1日 1回	1日 10回 未満	1日 10回 以上	未回答
478	44	17	8	14	5	44

表8（数字は人数）

結構多くの生徒が掲示板に書き込みをしていることが、上記表 8 からわかる。有効な活用がされているのかどうか一部の生徒に聞いてみたところ、次のような答えが返ってきた。

- ・質問したいことがあるときに記入した。
- ・自分の学校、他の学校の評判や悪口を見たりするのに利用している。
- ・暇なときに面白いことが書いてないか眺めている。

携帯電話の Web で掲示板に個人的な書き込みをした回数

0回	月に 1回	週に 1回	1日 1回	1日 10回 未満	1日 10回 以上	未回答
507	25	15	11	7	3	42

表 9 (数字は人数)

携帯電話での掲示板の書き込みは、次のような利用だそうである。

- ・友達と話題になった所を見たりする。
- ・写真などのデータを交換したいときに掲示板上で交換する。
- ・暇なときに面白い掲示板を探している。

携帯電話を使って、友達のホームページ上の掲示板に悪口や中傷を書き込んだとして、生徒指導上の事件が本年度本校でも実際に起きた。長崎県での事件が、身近なところでも十分起こり得ることを知るべきである。

(6) 知らない人とのチャット

家庭のパソコンで知らない人とチャットをした回数

0回	月に 1回	週に 1回	1日 1回	1日 10回 未満	1日 10回 以上	未回答
497	24	15	9	12	12	41

表 10 (数字は人数)

チャットというものを知らない教師や保護者が多い。しかし、高校生では日常普通に行われている。一度経験してみると面白さがわかるが、匿名で記入するため、悪用や「なりすまし」に注意しないとイケない。相手が何処の誰かわからない相手であることを意識して利用する必要がある。

また、記入した文章も消えてしまうし、書き方で相手に誤解を与えてしまうケースもあるので、気をつけなければならない。

本校の授業では、PC-ROOMで掲示板とチャットのどちらもクラス単位で生徒に経験させ、その違いを考えさせた。

携帯電話の Web で知らない人とチャットをした回数

0回	月に 1回	週に 1回	1日 1回	1日 10回 未満	1日 10回 以上	未回答
534	10	15	7	1	3	40

表 11 (数字は人数)

上記表 11 が携帯電話でのチャットの利用状況であるが、一部の生徒に確認した利用の仕方は、次のようであった。

- ・すぐに返事が返ってくるから面白い。
- ・暇なときに話をして遊んでいる。

3. 問題点と考察

(1) 1年生への情報モラル育成

高校生が携帯電話を持ち始めるのは、ほとんどが1年生からである。携帯電話を持ち始めることによって、気軽に情報通信端末に接することとなる。警戒心のない、また好奇心の強いうちに情報モラルに関する基礎的な知識を指導しておく必要がある。各家庭に任せるのではなく、学校の授業の中で学習することによって、トラブルに巻き込まれ

る高校生が少なくなるであろう。事件が起きてからではなく、未然に防ぐような対応を考えなければならぬ。教科情報の授業を1年生で履修している学校では問題が少ないと思うが、本校のように2、3年生で履修する学校では、1年生での指導がなされていない。だから、情報モラルの育成を教科情報に任せるのではなく、生徒指導の一環として、学年会で指導の徹底を図っていきたい。

(2) 家庭と学校の緊密な連携指導

家庭でのパソコンの利用状況や携帯電話の利用など、学校だけでは指導しきれない場所や時間帯が多い。保護者にも学校任せでは指導できないことを理解していただき、家庭と学校の緊密な連携しながら情報モラルの育成をしていく必要がある。手に負えないトラブルに巻き込まれたときは、保護者を通して警察に届け、相談することも考えなければならない。

(3) 道徳心を育てる指導

なんといっても情報モラルの問題は、個人の道徳的な問題である。頭から押さえつけるのではなく、本人自身が正しい知識と対応能力を持つことが必要である。インターネット上には、違法サイトや有害サイトがたくさんある。今までの高校生のコミュニケーションは、学校内や近隣地域に限られていた。しかし、今や携帯電話やインターネットを通して、広い世界と常につながっている。いくら学校や家庭で指導していても、本人自身がその気がないと効果が出ない。道徳心を育てる教育を教科指導の枠を超えて、全職員で工夫していく必要があると思う。

4. 最後に

携帯電話を複数台持っている生徒がいたので、参考までに質問項目に入れ、調査をしてみた結果が次の表12である。

0台	1台	2台	3台	4台	5台以上	未回答
62	479	22	5	1	5	35

表12 (数字は人数)

驚いたことに33人もの生徒が複数の携帯電話を持ち、使い分けていることがわかった。1台は保護者との連絡用で、他はプライベートな携帯電話である。教師や保護者の知らないところで、携帯電話を通してコミュニケーションを取っている高校生の実態が浮かび上がってきた。

携帯電話を5台以上持っているという2年生の生徒に、どのように使っているのか質問してみると、アルバイト先から持たされているだけだという返事が返ってきた。携帯電話の使用料を支払うためにアルバイトをして、アルバイトの数だけ携帯電話が増えていく。そして、携帯電話を通して学校外の結びつきが強くなっていくため、学校の学習に専念できない現在の高校生の姿がここにあるのではないかと考えさせられてしまう。

今回のアンケート調査は、1つの高校での様子であり、他の学校では様子が異なるであろう。各学校での実態を正確に把握するため、情報モラルに関するアンケートを実施してもらいたいものである。また、1年前のアンケート結果は参考にならないほどデータは常に変化している。定期的に調査を行い、実態を正確に把握するとともに指導に生かしていく必要がある。学校としての対応を求められる時期であり、情報モラルの育成を徹底して指導しなければいけない。